

T O
S
B A

UPER AQUA RIUM

TOBA SUPER AQUARIUM

特集

新鳥羽水族館 オープンからの歩み

鳥羽水族館ぐるっと一周

コーラルリーフダイビングゾーン

SAVE OUR NATURE!

「サンゴの世界的危機」 ● Jack T. Moyer

1992
SPRING

創刊号

vol.1

鳥羽水族館

創刊にあたって「海より広く、海より深く、海より碧い海がある」—01

特集 新鳥羽水族館
オープンからの歩み——02

鳥羽水族館ぐるっと一周
ゾーンの人気者
案内リレー (1) コーラルリーフダイビングゾーン
——06

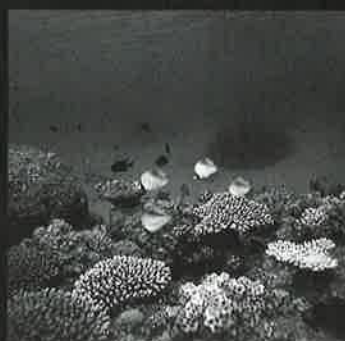
**SAVE OUR
NATURE** サンゴの世界的危機
Jack T. Moyer ——10

とっておきの
ウラ話 アシカのレンドとひよっ子獣医
長谷川一宏 ——12

伊勢志摩
海の民俗・民話
なるほど紳士録 イセエビ
森拓也 ——13

鳥羽水族館
活動レポート(1) ビデオ映像班
杉本幹 ——14

出来事&クローズ
アップ 平成3年10月21日～平成4年1月31日
——16



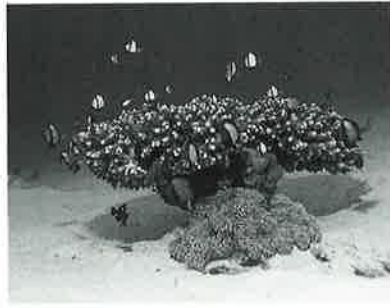
●フロントページから
「沖縄のサンゴ礁」

今、世界の海でサンゴが危機的状況にある。この碧く澄んだ海を次の世代へ残していくために、我々は何をすべきなのだろうか？

Photo: (株) ボルボックス

海より広く、海より深く、

海より碧い海がある。



鳥羽水族館は一昨年の1990年7月に、水族館を超えた水族館、つまり超水族館として生まれかわりました。本誌の名、「スーパーアクアリウム」はこの超水族館からつけられています。

さて、この超水族館（新鳥羽水族館）はどこが従来の水族館を超えているのでしょうか？それは水槽が大きくなったとか、展示動物が増えたなどという量的な問題ではありません。水槽の中の展示物が動物から「海の世界」「河の世界」とかわったのです。

地球という惑星には表面にその3分の2をおおう水の世界があります。そしてその世界の中で、かつて生命が誕生し、進化という長い命の歴史の末に地球上に生命があふれることになりました。また、今でもこの水の世界には地上に負けないほどの生命がせめぎあい協調しあいながら生きています。新鳥羽水族館はその水の中の世界で繰りひろげられてきた生命の歴史や、日々のドラマを展示物とし

てとらえています。だから皆さんはここで美しいサンゴ礁へ実際に潜っているのと同じ体験をし、熱帯雨林の河で巨大魚と遭遇し、あるいは波の下で生き生きと泳ぐアシカたちの仲間になって、気持ちを泳がせてみたりということができるはずですよ。

言いかえれば超水族館とは水の世界のドラマを体験できるところなのです。そしてこの「スーパーアクアリウム」はそういった日々のドラマの情報誌です。

超水族館を通して見られる水の世界の情報。超水族館で動物が自然界と同じ条件で暮らせるように環境づくりをしている水槽の向こう側の話題。最近深刻な問題になりつつある地球環境と水の世界の関わり合い。鳥羽水族館が水の世界を研究したり紹介しようとしている館外事業の数々。海と私たち人間の社会や文化とのつながり。「スーパーアクアリウム」はこれらの興味深い話題の数々を皆さんにタイムリーにお伝えすべく発刊

されました。

海より広い海がある。

海より深い海がある。

海より碧い海がある。

これは私たちの超水族館の基本コンセプトです。

実際には海より広かったり、深かったりする海が水族館の中にできるわけがありません。でも実際の海はながめているだけではなにも見えてはこないし、ほんの一部をかいま見るだけでも大変なことです。ところが私たちが心の世界は、情報さえ与えてやることで広げることができのです。

この「スーパーアクアリウム」が皆さんの心で「海より広く、海より深く、海より碧い」皆さんだけの海をつくり出すきっかけになれば嬉しいことです。

特集

新鳥羽水族館
から
の歩み



1990年7月15日
総事業費約100億円
飼育種類数世界一の超水族館誕生！



サンゴ礁の海をバックにしたエントランスホール。イベントホールとしても使用できる。



ベイサイドストリートからは鳥羽湾が見渡せる。



リゾート気分のシェラトンフードレストラン



新しい鳥羽水族館は超水族館の愛称通り、従来の水族館の展示の導線イメージをはるかに超えた水族館として誕生したばかりでなく、これからのリゾート文化を支える街としても機能するべく計画されてきました。

オープンの時より、館内のギャラリーで常時開催されている「ピュアアートギャラリー」やエントランスホールで定期的に行われている「海のホールコンサート」などは、文化の街「超水族館」の大きな特徴といえるでしょう。

■1990年7月15日(1)

ニューカレドニア

ヌメア水族館と姉妹館

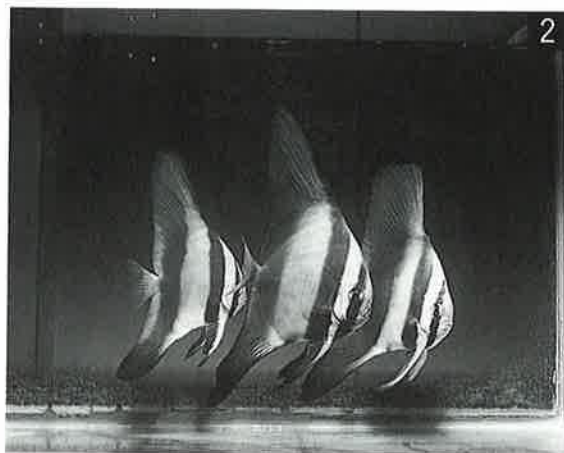
提携

オオベソオウムガイの飼育研究を通じて15年前から友好関係にあるヌメア水族館(市立)と姉妹館提携を結ぶことになり、P・ジョアノ館長を迎えて調印式が行われました。ヌメア水族館は世界で初めてオオベソオウムガイの飼育に成功したことで有名な水族館です。

■1990年11月30日(2)

ツバメウオの繁殖に成功

ジュゴンの「じゅんいち」(オス)と同居しているツバメウオが産卵し、フ化した140匹の稚魚の内、5匹が無事成長して1990年11月30日で6カ月を経過したため、日本動物園水族館協会より繁殖賞が贈られました。今では親魚と見分けがつかないくらい大きくなっています。



■1990年12月14日
開館より35年

入館者3000万人達成

1955年5月15日に鳥羽水族館が産声をあげてから35年。単独の水族館施設としては日本で初めて、入館者数の累計が3000万人を突破しました。3000万人目の入館者には鳥羽水族館の人気者ジュゴンの故郷、フィリピンのエルニドヘアア旅行がプレゼントされました。

■1991年5月28日～30日(3)

秋篠宮様御来館

1991年5月27日から4日間、当館を会場に日本動物園水族館協会の総会が開催され、同協会総裁の秋篠宮文仁殿下が御来館になりました。4回目の御来館とあつて中村館長とは旧知の間柄。ご専門のナマズの水槽の前では、学名を教えていただくという一幕もありました。

■1991年6月28日～30日(4)

リゾートダイビングショー

191開催

リゾート情報発信の第一弾として、最新のダイビングギアを紹介するダイビングショーを開催しました。

エントランスホールに設けられたブースでの展示に加えて、ステージでデモをみせた水着姿のモデルが実際に水槽に潜ってみせ、大きな話題を呼びました。

■1991年9月14日(5)

海のホールコンサート

はじまる

リゾート文化事業の一環として、会員制によるコンサートのエントランスホールで行われました。これは2カ月に一度、閉館後のホールを利用してクラシックとジャズのコンサートを交互に開くもので、美しいサンゴ礁と魚たちをバックにしての演奏は出演者にも好評です。

■1991年10月19日(6)

世界初！水中結婚式

「水族館で結婚式を挙げませんか？」との呼びかけに答え、二人のダイバーが魚たちや観光客の見守る中、世界で初めて水槽内で結婚式を挙げました。神職も急拠練習を始めて水中での祝詞奏上に挑戦。披露宴では水中カラオケも飛び出し、当館からはお二人にニューカレドニアへのハネムーンがプレゼントされました。



● 鳥羽水族館ぐるっと一周

ゾーンの人気者案内リレー

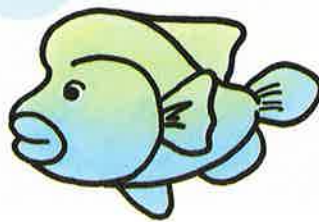
vol.1

新鳥羽水族館では環境や生物の生活などをテーマに館内を分けています。



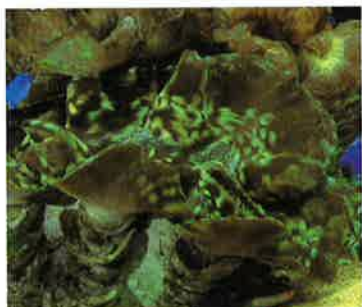
コーラルリーフ
ダイビングゾーン

はい、みなさんこんにちは！
今日はぼくが住んでいるコーラルリーフ
ダイビングゾーンをご案内しま〜す。
それでは出発！



改札をぬけて一番最初にみんなの目に飛び込んできて、おもわず「わあー」と声をあげてしまう大水槽。これがぼくたちサンゴ礁の海に住む仲間たちがたくさんいるコーラルリーフダイビング水槽なんだ。16メートル四方、深さ5.5メートルの水槽に大サンゴ礁を再現し、さらにその中をみんなに海に潜ってダイビングをしている気分を体験してもらえるように、天井、正面、左右をアクリルガラスでおおってあるんだよ。

みんなの目の前に広がる55種約

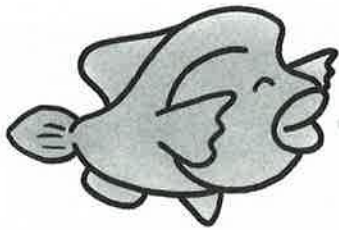
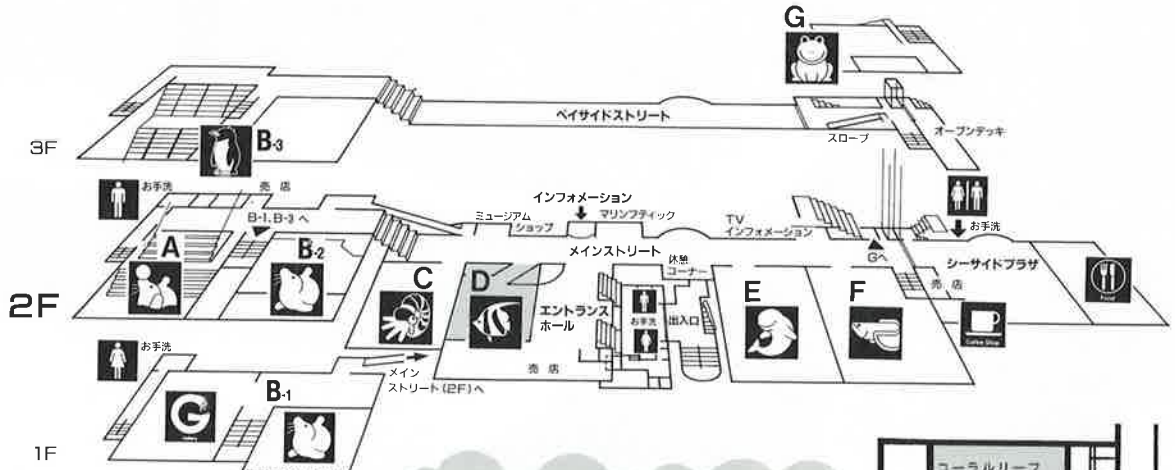


これがヒレジャコガイ。
アカハチハゼがいるのわかるかな？

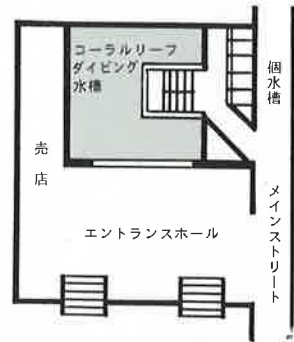


大切に大切に育てられている、生きた
サンゴたち

650個の美しいサンゴの数々。
実は総額一億円と半年の制作期間
をかけてつくった人工のサンゴな
んだ。ぼくたちもすっかりだまされ
ちゃったよ。
このゾーンにはぼくたちの住む
大きなコーラルリーフダイビング
水槽の他に5つの水槽があって、
ここでは生きたサンゴを特別な光



これがボクたち海や河の仲間が住んでいる鳥羽水族館です。コーラルリーフダイビングはエンタランスホールにあがると目の前だよ。



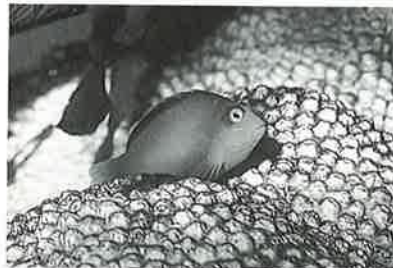
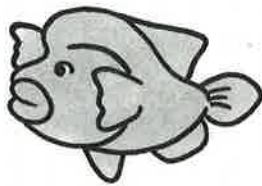
をあてて大切に育てているんだよ。みんなは魚たちの隠れ家になっているのが、ヒレジャコガイって気がついてた？ これでもまだ小さい方なんだって。

ヒレジャコガイの下から顔を出しているのはアカハチハゼ。彼らは砂の中にある餌を砂ごと呑み込んで、砂だけエラから吐き出して食べるんだよ。だから彼らは口で砂を掘るのがとっても得意で、隠れ家も自分でどんどんつくつくちゃう頼もしいやつなんだ。

ほら、こっこの水槽で目の前を横切ったのは真つ赤なベニゴンベ。ゴンベの仲間はうきぶくろが退化しているから泳ぎ方がちよつと変っているんだ。鳥のタカが木から木へ飛び移るように、サンゴからサンゴへ移るから、英名では「ホークフィッシュ(タカのような魚)」と呼ばれているんだよ。

ここではじっくり見ていると、いっぱい新しい発見があるはずだよ。

次はボクたちの舞台裏をお見せしましょう。

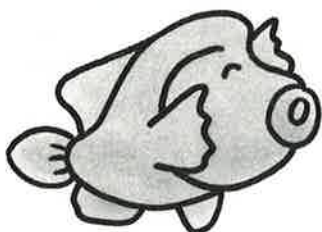


「ホークフィッシュ」はボクのことさ！

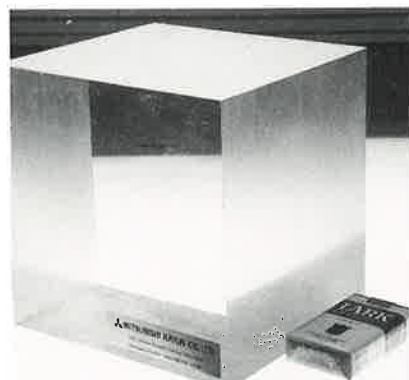


この大きな口が大活躍！

これがボクたちの食事だよ。



ガラス磨きも大切な仕事です。



みんなの家の窓ガラスとは大違いでしょ。

まず最初に紹介するのはこれ。
 (上の写真) 何かわかるかい? ぼくの住んでいるコーラルリーフダイビング水槽で1320トンの水圧に耐えているアクリルガラスの断面なんだ。ぼくたち水の中の仲間とみんなとは、こんなに厚いアクリルガラスを通して向い合っていることになるんだよ。美しいサンゴやぼくたちにとれて気づかなかったでしょう。
 「おねえさん早く早く、みんな待ってるよお。」
 これがぼくたちの食事なんだ。レタスもあるって驚かないでね。レタスはニザダイの仲間やアイゴの仲間の好物なんだからね。
 ぼくたちのゾーンを担当している飼育スタッフは7人。隣の古代の海ゾーンもいっしょに担当しているんだって。
 ぼくたちがおいしく食事できるのも、みんなときれいなガラスを通して会えるのも、そして毎日健康で生き生きと泳いでいられるのも、飼育スタッフのみなさんのおかげなんだよね。ありがとう!

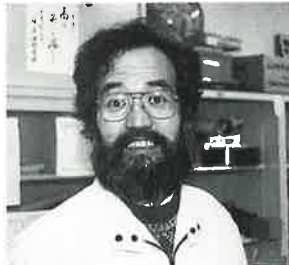


★次回は私が古代の海ゾーンのご案内します。おたのしみに...

堀田拓史
魚たちの守り神?



大形紀子
メガネをかけたおと姫さま



古田正美
元祖ラッコのヒゲおじさん

SAVE OUR NATURE



カエルが地球をやさしく抱いているイラストは鳥羽水族館のSAVE OUR NATUREキャンペーンのシンボルマークです。このコラムでは、毎号の各ゾーン紹介に関連した地球環境の話題をご紹介します。

We must be thinking now about THE EARTH

1

サンゴの世界的危機

海洋生物学者 Jack T. Moyer

(訳：前田広士)

世界中のサンゴが危機に陥っています。カリブ海からオーストラリアのグレートバリアリーフ、そして特に紅海とペルシャ湾の状況は深刻です。さらに、日本と西太平洋における危機的状況は他に例を見ません。J.E.N. Veron教授と西平教授の6年間にわたる調査によって、日本の海には400種以上の造礁サンゴ(サンゴ礁をつくるサンゴ)が存在することがわかりました。

広くは知られていませんが、日本のサンゴはオーストラリアのグレートバリアリーフに匹敵するほど素晴らしいものだと言われています。しかし、同教授らはその内の80%以上は絶滅してしまったと予測しています。フィリピンとインドネシアでの状況もひどいものです。およそ60%(インドネシア)から80%(フィリピン)のサンゴは絶滅してしまつたのです。

サンゴ礁の破壊の原因は多岐にわたります。サンゴの大半は透明で暖かい水(摂氏17度から29度程度)をその生息地に必要とします。水の透明度はサンゴの健康な再生産(繁殖)においてとても重要なものです。世界の多くの地域では

サンゴは建設等に伴う堆積物により、大きなダメージをうけています。ゴルフコース、マリーナ、リゾート道路、空港などの建設では数トンもの土砂が非常にデリケートな沿岸の環境に放り込まれるのです。このような土壌の流失物のかけらはサンゴの上に溜り、カーペット状になってサンゴのポリプが周囲の海水から食物を濾し取ることを妨げるのです。さらにそれを無理に取り除こうとするとサンゴは壊され、体液を相当失ってしまいます。それは代謝異常を長期にわたっておこすだけでなく、ウイルスや細菌による疾病の可能性を高めるのです。

グアム大学のR. Richmond博士は土砂の流入はサンゴの繁殖に、非常に有害であると述べています。実験の結果、赤土の流入は造礁サンゴのプラヌラ(幼生)の着生やサンゴの受精の可能性を、非常に下げられるものであることが証明されました。オニヒトデとヒメシロレイシガイダマシもサンゴの破壊者で、広くサンゴを食害します。

乱伐やブルドーザーでの開発が原因でおこる土砂の流入によりもたらされる環境の変化が、これらサンゴのポリプを食べる両者の異



Jack T. Moyer

(ジャック ティ モイヤー)

1929年米国生まれ
ミシガン大学を経て東京大学
動物学博士課程を卒業。
1951年より日本で研究活動
を続ける。特にサンゴおよび
サンゴ礁魚類の生態研究にお
いては著名である。
現在、田中達夫記念生態研究
所所長を務めるかたわら、
WWF等のコンサルタントを
積極的に行う。
鳥羽水族館顧問



常発生の原因だという証拠が次々と証明されています。これは、日本のような無秩序な開発が行われている地域のサンゴが、漸次減少していくことの証明になるでしょう。そして、今日のサンゴに対する最大の脅威は地球の温暖化でしょう。通常とは異なる暖かい水は、サンゴの死因となります。死んだサンゴは、その死亡後一週間以内に白化した骨格が目立つので、すぐにわかります。科学者はこの状態を「サンゴの白化」と呼びます。

■ サンゴの白化は1980年代に初めてカリブ海で発見され、世界に広がっていることが知られてきました。その中には、石垣島の白保も含まれています。極地のオゾンホールのようなまとまったサンゴの白化状態は、新たに見られる予期されなかった現象であり、環境の悪化が非常に厳しく、世界的な保護活動が至急必要であることを、今まで以上に理解させるでしょう。その環境的ストレスを軽減する措置をとらなければ、サンゴは次世代で失われてしまうでしょう。明確なのは世界的規模のサンゴの破壊が、人間の環境に対する無神経な行為に起因するというこ

とです。

■ 今世紀ももう終ろうとしていますが、21世紀のはじめにこの地球を動かしていく我々の子供に対する教育において、最優先順位で生態のことを学ばせるとともに、環境への関心を育てることが緊急の課題といえるでしょう。しかし、世界中の政府のゆつくりとした官僚主義のせいで、重要な環境問題は義務教育においてもカリキュラムにはほとんど取り入れられていません。私見ですが、日本の学校における環境教育の認識不足は、文部省のカリキュラム担当者の認識の欠如にその原因があるといえるでしょう。教育におけるこの深刻なギャップは、広大な海や、水族館などでの充実したプログラムにより、軽減することができます。水族館では生態系や環境認識のための展示をすることにより、老若を問わず大衆に対する環境認識と意識を高めることへの最大の貢献ができるでしょう。

アシカのレンドとひよっ子獣医

■獣医 長谷川 一宏

私が鳥羽水族館に入社した頃、飼育研修でアシカ班にお世話になったことがあります。「今から登場してきますのは、当館で三年前に生まれたかわいいアシカ君たち二頭です。」のアシカショーアナウンスにのって登場してくるオタリアのレンドとアフリカオットセイのブルグ。この二頭が当時私が世話をした世話になった？アシカでした。三年前に生まれたばかりとはいえアシカは大型獣。間近で見ると威圧感があり、特にレンドには、エサのパケツを落とされたり、手を噛まれそうになったり、おまけにプールに落とされそうになったりといういろいろあって、私には少し恐い存在でした。

それでもつき合いが長くなるにつれて、私もレンドに馴れてくると、彼について幾つかのことを発見できるようになりました。彼は羽虫が嫌いでした。体に羽虫がつくと、エサもそっちのけで虫を噛もうと歯をガチガチ、口をパクパクやっていました。また彼はトン

ボを恐がりました。ショーの訓練中にトンボが飛んできたとき、レンドは大あわてで訓練台から逃げ下りたのです。彼はこの時、生まれて初めてトンボを見たのかもしれない。このようなことを通じて、レンドにとつて本当に当り前のことなのに、それまで気づかなかったことに私は思い当たりました。それは彼がまだ子供だということでした。

ある日、レンドと私はオリ越しににらめっこをしていました。彼は「おなか減ったなあ、兄ちゃん（今はおっちゃん）食べるもんくれへんかなあ・・・」とも思っていたのでしょうか、彼がふと空を見上げたのです。虫でも飛んでいるのかと、つられて私も空を見上げました。そこには何も見あたりません。彼は「見てみ、空がきれいやで。のんびりやろうや。」とも言いたかったのでしょうか。そしてその時空を見上げたレンドの目は、まぎれもなく子供のそれだったのです。

こんなこともあって、私のレンドに対する親しみは増していきました。しかし親近感が出てくれば出てくるほど、自分もどかしく思える時間もまた増えていきました。それはショーの練習をしていて、彼らが私の言っていることを理解してくれないときです。彼らに私の気持ちは通じない、私にも彼らの考えていることがわからないうい・・・動物と人間とのコミュニケーションには限界があるのでしようか？

ある日、ショーの練習を見ていたお子さんが「アシカが遊んでいるよ」とお母さんに言っている声が聞こえてきたのです。そのお子さんには、アシカたちが遊んでいるように感じるほどリラックスして見えたのでしょうか。そういうふうに動物たちも楽しみながらショーをして、その動物たちの心の内を理解しつつ、ショーをできる日がくることを夢見て、私たち飼育係や獣医は日夜動物の健康管理に務めています。



心はぎっと通じ合えるよね!



●伊勢志摩 海の民俗・民話

なるほど紳士録(一)

イセエビ

■学芸員 森 拓也



「イセエビは伊勢で獲れるから『伊勢海老』って言うんでしょ？」

確かにイセエビは昔の伊勢の国、即ち三重県で多く獲れ、現在の県章が制定されるまでは国体旗のデザインにもイセエビがシンボルマークに使われていました。しかし、水揚げだけをとってみると、和歌山県、千葉県に次いで第三位にすぎません。また、正確には伊勢では獲れず、鳥羽から志摩地方にかけてが本場で、トバエビ、あるいはシマエビであっても決しておかしくはないのです。

イセエビの語源を調べてみると、鳥羽や志摩地方で水揚げされたエビを商売上手として名高い伊勢の商人が買い集め、京や上方に送って売りさばいたためとする説や、伊勢神宮の神饌(お供え、神様の食事にあたる)としてアワビ、

タイと並び称される重要なエビであつたためとする説など、いずれもなるほどとうなずけるものばかりです。特に交通機関の発達していなかつた昔は、伊勢神宮まで早馬を仕立てて届けたという話も残っています。この他、エビ類のなかでもとりわけ生命力が強いというので威勢がいいエビ、つまり

『威勢エビ』がなまってイセエビと名付けられたとする説もありますが、日本を代表するエビだけに断定はされたほうが無難なようです。

ところで、志摩地方にはタコを使つてイセエビを獲る伝統的な漁法があります。鳥羽水族館ではテレビ局の依頼もあつて水中撮影班が取材に出かけ、この模様をビデオに収めることに成功しました。場所は漁協の好意で普段は立ち

入れない禁漁区。伝統の技を伝える数少ない一人となつた老人が、船の生け簀から活きのいいタコをつかみ出し、おもむろに長い竹竿の先にくくりつけると準備完了です。これを箱眼鏡を覗きながら繰つて、イセエビの居そうな岩の間や岩棚に差入れ、大嫌いなタコに驚いて飛び出してくるイセエビを、もう一方の手を持ったタモ網ですくつてしまおうというので

私達が水中カメラを構えて待ち受ける中、船から竿が下りてきました。縛りつけられた半死半生のタコは竿の動きに合わせ、自由自在に海底を泳ぎます。そして、岩陰から大きなイセエビがピョンと飛び出すと、今度は長柄のタモ網がスルスルと伸びて退路を断ち、これを繰り返すうちにイセエビは自ら網の中に飛び込んでしまふという訳です。実に鮮やかというほかありません。

このようにイセエビは昔から伊勢志摩地方の人々の生活や文化と深くかかわってきました。「イセエビは伊勢で獲れないのにどうして『伊勢海老』っていうの?」こんなことにならないよう、いつまでもイセエビ達が安心して住める海を守っていききたいものです。



タコを使う漁法

企画室 ビデオ映像班

●企画室 杉本 幹●

『ペンギンが卵を産みました』、『タツノオトシゴの子供が生まれそうです』、『魚の様子が少しおかしいので撮影しておいてください』こんな電話が飼育研究部から企画室に時折かかってきます。さあ企画室の映像班の出番です。

今日は特に他の水族館には見られない、ビデオ映像班をご紹介します。

ビデオ映像班って何？

鳥羽水族館にはジュゴン、ラッコ、イロワケイルカなどの哺乳動物からクラゲなどの腔腸動物まで約700種40000点の動物たちがいます。動物たちはそれぞれにいろいろな形で生活を営んでいます。企画室映像班の重要な仕事の一つはこれら動物たちの生態を撮影することです。

動物たちの生態を撮影しておくことは、単に記録として残すだけでなく、今後その動物を飼育や研究していく上での大きなヒントや助けになります。また、これをテレビや映画で紹介することは、鳥羽水族館に来ることのできない人のための館外展示となるのです。

さて飼育研究部からの電話でビデオカメラをもって現場へ飛び出します。

とにかく出産などは一瞬で終わってしまうことも多いので急がなければなりません。現場へ着くと担当の飼育スタッフの様子を聞きながらカメラをセットしま

活躍するロボットカメラ

映像班の撮影は館内だけではありません。動物の自然での生態を知るためには館内から館外、国内から国外にまで出かけていきます。

す。しかし相手は動物のこのと、思ったように撮影できないことも度々です。水槽の前に着いたときには、もう隠れてしまっていたり、何事もなかったようにすました顔でこちらをのぞき込んでいたりします。また今か今かと待っているうちに時間は過ぎ、朝を迎えることもよくあります。こんな時は眠気を我慢してただひたすら待つのみです。その瞬間を逃すともう二度と見れないかもしれません。ようやくその瞬間がきた時はいつも感動的。撮影も成功すれば踊り出してしまいうほほです。こうして撮影した映像には珍しいものやおもしろいものがたくさんあります。スナメリの出産やクエとホンソメワケベラの共生だとかヤドカリの宿替え、イセエビの脱皮、ジュゴンのあくび……。こうして映像班は館内では動物たちの交尾、出産、成長、生態、などを一年中、飼育研究部とコミュニケーションをはかりながら撮影を続けています。

近くの海や川には季節やポイントを絞って出かけます。アカテガニの放卵やアユの産卵などは案外近くで見ることが出来ます。また、鳥羽水族館は海外調査を世界各地の海でおこなっています。その際飼育研究部のスタッフに同行し、動物たちの自然の生態を撮影します。今までに日本で初めて撮影に成功した北極でのイッカククジラや、コモロでのシーラカンスの映像は、学術的に大変貴重なものとなっています。またフィリピンでのジュゴンの調査では、生物調査から保護、畜養、輸送、水族館での飼育までの様子を三年間にわたって記録しました。もちろんビデオ映像班は陸上以外に水中にも潜り、撮影をしています。特に、浅



”あっ生まれた！”
スナメリの赤ちゃん



北極にて撮影中のスタッフたち



深い海の様子もこのロボットカメラでわかります

「やったー」撮影成功に歓声があがる

こうして朝まで待ちつづけることも多い

い海ではスタッフが潜って撮影をおこなっています。が、深い海の撮影には水中ロボットカメラが登場します。このロボットカメラは水深300mまで潜ることができ、性能を持っています。操作はすべて船の上からリモートコントロールできます。この水中ロボットカメラ（1）が特に威力を発揮したのは1989年、コモロ諸島の海です。水深

184m、ユラユラと優雅に泳ぐシーラカンスの群を発見したロボットカメラは、ついに自然状態でのシーラカンスの撮影に成功しました。（2）

教材ビデオの制作

撮影したビデオは、簡単に見れないシーンを始め、珍しい生態などを記録していますから、研究用に飼育

研究部のスタッフが見る以外にTV局から貸し出しの依頼もたくさんあります。ニュースや番組でよく使われている映像の中で「鳥羽水族館」とでてくるのは、すべて映像班が提供しているものです。

映像班がおこなっている

もうひとつの重要な仕事は教材ビデオの制作です。せっかくおもしろいテープがあるのだから子供たちの学習に役立てたい。と小学校の先生に相談してみると「子供たちに魚や動物の作品をみせてやりたいのだが、テープが高価なのでなかなか難しい、できるならば是非お願いします。」という返事が返ってきました。早速、撮影していたテープの編集にとりかかりました。一本目の作品には身近にいる動物「ザリガニ」に決めたのですが、作品に仕上げる為には、まだ撮影しなければならぬ場面がたくさんありました。例えばザリガニが脱皮する瞬間などは飼育係でもほとんど見たことがなかったのです。

その為毎日のように徹夜の撮影がつづき、出来上がるまでに三カ月かかりました。でもこうしてようやく出来上がったビデオはおかげで大好評、希望される学校も多かったためテープ代だけ頂いてお分けすることになりました。

二作目には「ちよちゃんの日飼育係」も完成し、今では287校に380本ものテープが図書室などにおかれ、理科や生活科の時間で頻りに利用されるようになりました。またうれしいことに先生からは次の作品を望む電話もかかってくるため「このビデオを見て子どもたちがザリガニを捜しに出かけてくれればいいがなあ」と思いつつ、映像班は次の教材ビデオ制作の為に、はりきって今もいろいろなところへ出かけています。



大好評の教材ビデオ
次回作をお楽しみに

春、水族館の中でも野外でも産卵や出産のシーズンの始まりです。ビデオ映像班も大忙し、きつと毎日あつちこつちへと走り回ってることでしょう。皆さんも野外に出てみてください。田んぼでは寒天のようなカエルの卵を、海ではラーメンのようなアメフラシの卵を見つけたことができません。そしてもし大きなビデオカメラを持ってその辺りをウロウロしている人がいればそれはきっと鳥羽水族館ビデオ映像班の私たちスタッフです。

「少年海洋教室」

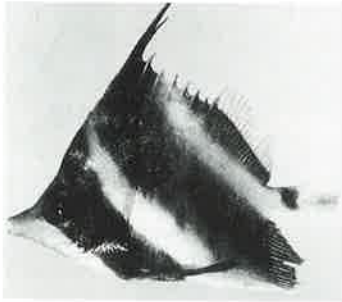
今回は
つづけてみよう
僕たちの水族館
をレポートします。

出来事

■平成3年10月～平成4年1月31日

- 10月 27日★ミナミハタタテダイ、テンジクスズメダイが獲れ入館
- 11月 2日●三重県移動博物館へ出展（4日まで）
- 9日●尾鷲でリュウグウノツカイが獲れ標本として受領
●海のホール定期コンサート開催 第2回三四郎withTAOを迎えて
- 15日●バイカルアザラシ健康診断
●御座でクサウオが獲れ入館
- 22日★マロンロブスター展示
- 29日●菅島でスナメリの胎児が網にかかり標本として受領
- 12月 11日●マニアよりグレートナイルパーチ寄贈
- 14日★調査作業船「じゅごんⅡ世」進水
- 20日●バイカルアザラシ健康診断
- 21日●魚類22種226点、無脊椎動物12種19点よみうりランドへ
●無脊椎動物3種9点竹島水族館へ
- 22・23日●クリスマスシンセサイザーコンサート（1日4ステージ）
- 28日●コガシラスッポン（1）入館
- 1月 1日★若いアシカたちショーに前座デビュー
★サルと名のつく貝展示
- 1～3日●琴演奏（1日4ステージ）
- 10日●バイカルアザラシ健康診断
- 11日●ヒカリキンメダイ（10）入館
- 14日★紀伊長島でヒゲハギが獲れ入館
- 17日★おさかな普及センター資料館 阿部宗明館長 講演会
- 18日●海のホール定期コンサート開催 第3回牧千恵子とファミを迎えて

三重県初記録



集されたミナミハタタテダイ（写真）とテンジクスズメダイも三重県では初めての記録です。2種とも度会郡南勢町の五ヶ所湾内のツエ籠で10月27日に捕獲され水族館に運びましたが、短期間で死亡しました。（塚田）

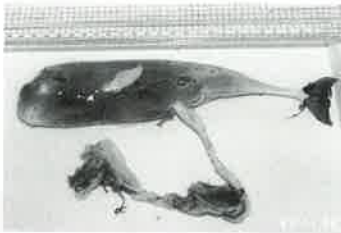
マロンロブスター展示



11月22日にマロンロブスターが入館しました。日本の水族館では初めての展示です。このロブスターはオーストラリアの南西部に分布しており、体色は真っ青なマリングラムで、成長すると27キログラムに達するものもあります。現在、全長10センチ未満ですが、なんと大きくしたいものです。（若井）

スナメリの胎児

11月29日に鳥羽市菅島町の松村博氏より、死亡したスナメリの胎児が持ち込まれました。体長約25cmのオスで、



胎盤とヘソの緒をつけたままでした。カレイを捕る刺網にかかったようですが、何かの原因で流産したのでしょうか。近くには母親の姿はなかったそうです。スナメリの胎児に関する重要な資料として、当館で保管しています。（帝釈）

調査作業船

「じゅごんⅡ世」進水



12月14日に「じゅごんⅡ世」という新しい調査船が進水しました。昭和54年に初めて調査船が誕生し、ジュゴンの餌

夏から秋にかけて三重県沿岸部の水温が上昇すると、熱帯海域に生息するチヨウチヨウウオやスズメダイの仔魚が岸壁近くで見られます。今回採

■編集後記■

先日、冬の鳥羽の海に潜れる機会に恵まれました。久しぶりの海の中では、メバルやキュウセンたちが優雅に泳いでいました。しかし水温が17℃と、寒さに弱い私にはかなりこたえました。

早く夏よこい！（高村）

■
創刊号の制作にあたって、他園館の定期刊行物を改めて読み返し、参考にさせていただきました。読むだけの立場から創るという立場に加わり、他園館から送られてくる定期刊行物がますます楽しみになりました。（酒井）

TOBA SUPER AQUARIUM
1992 春 創刊号

発行人／中村幸昭

発行所／鳥羽水族館
〒517鳥羽市鳥羽3-3-6
0599-25-2555

編集長／中村元

編集委員／酒井里絵子
高村直人

レイアウト／(有)スクープ

印刷／(株)アイブレーション

◎ 本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

アシカショー前座デビュー

まだチームを組んでショーに出演していないアシカの子供たちが、1月1日よりショータイムの10分前から、トレーナーとの掛け合い風コントや日頃の学習の成果を観客に披露しました。この前座ショーは1月1日～1月5日の間

のアマモ採集船として活躍して来ました。その「じゅごんI世」も老朽化が目立ち12年の歳月には勝てず、2隻目の調査船として「じゅごんII世」を購入しました。仕様は長さ7.8メートル、幅2.2メートル、総トン数1.1トン、最大搭載人員8名、速力24.5ノットのFRP船で、航海灯やサーチライト、無線も備え夜間航行も可能な装備万全の新船です。（山本）



サルと名のつく貝展示

今年の干支はサル。そこでサルアワビ、サルノカシラガイなど干支にちなんだ名前

に数回行い、好評を得ました。予想しない出来事を経験し、トレーナーとの考えとは裏腹に学習が進まない場合が多いようですが、先輩アシカに追い付き追い越せと頑張っています。（沢村）

阿部宗明先生講演会

1月17日に新館4階のレクチャーホールにおいて、築地おさかな普及センター資料館

体に海藻のようなヒゲをつけていることからこの名前がつけられました。熱帯海域に分布する魚なので、本州沿岸での採集記録はあまりありませんが、1984年には40個体以上も本州から捕獲された記録があります。1月14日に採集されたヒゲハギは紀伊長島町の刺網にかかった全長約20cmの成魚でした。（塚田）

ヒゲハギ入館

貝9種を集めて、寺町コレクシオンホールで特別展示を行っています。（森）



館長・阿部宗明先生の講演会を開催しました。この講演会は、鳥羽水族館が職員のため1月2回開講している魚類学（講師・鈴木清 三重大学名誉教授）の特別講座として一般の方にも参加していただけるよう企画されたものです。当日は養殖研究所をはじめ、大学関係者、漁協関係者や他館のスタッフも参加し、150名以上の方に聴講して頂きました。講演は「新顔の魚」という演題で、築地市場などに輸入されてくる外国産の新


親善訪問へ出発

又メア水族館との姉妹館提携に関連した活動の一環として、中村館長を団長に親善使節団を派遣することになり、水族館関係者及び一般参加者を含めて51名が3月18日、ニユーカレドニアに向けて出発しました。又メアでは市役所や水族館の公式訪問など、様々な民間外交が繰り広げられました。（森）

しい魚についてわかりやすく解説をしていただきました。マグロだけではなく、タイやアジなども外国からどんどん輸入されてくることや、ペレレイやティラピアといった魚が養殖されているなど、日本人の食卓も本当に国際色豊かになっていくことがわかりました。（前田）

鳥羽水族館

スケジュール (1992年2月29日 現在)

<p>4月</p> 	<p>3月28日～4月24日 戸田陽子展</p> <p>4月25日～5月22日 土嶋敏男展</p>	<p>3月7日～4月22日 莊司武臣・ 魚と花の陶板展</p> <p>4月23日～5月27日 トロピカルアート展</p> <p>4月中旬映像班オーストラリアへ 念願のジュゴンが自然界で悠々と泳ぐ姿など大自然に生きる生物たちの撮影に出発します。これらの様子は映像で皆様にもお見せできると思います。</p>
<p>5月</p> 	<p>5月23日～6月26日 市川雄康展</p>	<p>5月8～24日 第6次フィリピン・エルニド周辺海域ジュゴン共同調査へ 1985年に着手したこの調査も6回目を迎え、今回はその集大成とすべく、生態調査や水中ビデオ撮影の他に、地域住民に対する自然保護の教育プログラムも実施することになりました。</p>
<p>6月</p> 		<p>5月17日 バイカルアザラシ 「ナターシャ」飼育満11年 国内最長飼育記録更新中</p>  <p>ジュゴンの親子</p> 

クイズ&プレゼント

Q：鳥羽水族館で制作した教材ビデオのタイトルは「ちよちゃんの1日飼育係」ともう1本は何でしょう？

ヒント：活動レポートのページをよく読んでね。

正解者の中から抽選で写真の鳥羽水族館人気のおみやげグッズ「ボーンチャイナ」を2個セットにして5名様にプレゼントします。どなたでも応募できますので、ハガキにクイズの答え、住所、氏名、をご記入の上どしどしご応募下さい。



締切りは4月30日です。
また質問、感想など、お便りもお待ちしております。
あて先

〒517 三重県鳥羽市鳥羽
3-3-6
鳥羽水族館 企画室
「T.S.A」編集係

夏休み少年海洋教室

伝言板

今年も開催！



昨年は応募者多数のため、抽選で選ばれた県内外の小学5・6年生25名が参加。

「つくってみよう僕たちの水族館」と題し2泊3日でくりひろげられました。

さて、今年は…。

募集要項は次号で発表します。

■定期購読申し込み方法■

申し込み時より1年分の送料として175円切手を4枚、上記あて先までお送りください。
(住所、氏名、電話番号をお忘れなく！)